

## 第4研究班 先進診断技術の開発と応用研究班

### 4-1 歯科疾患の遺伝子診断の開発と応用研究グループ

- (※) 1) Dohmoto A, Shimizu K, Asada Y, Maeda T: Quantitative trait loci on chromosomes 10 and 11 influencing mandible size of SMXA RI mouse strains, J Dent Res, 81(7):501-504, 2002.
- (※) 2) Uematsu T, Shimizu K, Nakamura H, Asada Y, Maeda T: Molecular Genetic Study of Dental Caries Susceptibility in Mice, Int J Oral-Med Sci, 1(1):33-39, 2002.
- (※) 3) Uematsu T, Nariyama M, Shimizu K, Maeda T: Mapping of affected gene(s) to dental caries susceptibility on mouse chromosome 2, Pediatric Dental J, 13(1):75-81, 2003.
- (※) 4) Matsune K, Miyoshi K, Kosaki R, Ohashi H, Maeda T: Taste after reduction of the tongue in Beckwith-Wiedemann syndrome, British Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, 44:49-51, 2006.
- 5) 平塚浩一, 荒木 誠, 江間みどり, 安孫子宜光: *Porphyromonas gingivalis* gingipain 遺伝子マイクロアレイの開発, 医学と生物学, 144: 133-137, 2002.
- (※) 6) 清水武彦, 韓 娟, 前田隆秀: コルチゾンにより誘導されるマウス口蓋裂成因に対する遺伝学的検討, 小児歯科学雑誌, 41:194-200, 2003.
- (※) 7) Miura Y and Shimizu T: Genetic mapping of fused root of the maxillary second molar in mice to chromosome 5, Pediatric Dental Journal, 15(2):171-175, 2005.
- (※) 8) 清水武彦, 福島知典, 韓 娟, 松永利恵, 天井砂波里, 前田隆秀: 鎖骨頭蓋骨異形成症における RUNX2 遺伝子のミスセンス変異, 小児歯誌, 43(5):583-590, 2005.
- (※) 9) 小宮城治, 清水邦彦: マウス SMXA Recombinant 近交系を用いた上顎近遠心方向の大きさを規定する遺伝子の量的形質遺伝解析, 小児歯誌, 40: 627-632, 2002.
- (※) 10) 韓 娟, 前田実智子, 清水武彦, 清水邦彦, 松永利恵, 前田隆秀: コルチゾン投与によるマウス唇顎口蓋裂発症に関与する母体環境の検討, 小児歯誌, 43(5):624-630, 2005
- (※) 11) 木山一岸川道子, 平塚浩一, 安孫子宜光: *Porphyromonas gingivalis* のストレス関連タンパク質遺伝子発現に及ぼすヘミンの影響, 医学と生物学, 149:69-73, 2005.
- (※) 12) Kiyama-Kishikawa M, Hiratsuka K, Abiko Y: Gene Expression profiling and characterization under hemin limitation in *Porphyromonas gingivalis*, J Oral Sci, 47:191-197, 2005.

### 4-2 生体機能からみた顎口腔機能の診断と応用研究グループ

- 13) 松根健介, 梶山 紫, 臼井 朗, 荒井清司, 前田隆秀: 外傷により引き起こされた形態異常を呈した下顎左側中切歯の診断・治療に歯科用 CT (3DX™) を用いた 1 例, 日本外傷歯学会雑誌, 1(1):61-65, 2005.
- (※) 14) 鈴木浩司, 浅野 隆, 川良美佐雄, 小見山道林 幸男, 荒井真喜, 川手秋馬, 小林喜平: 背筋力発揮時における顎頭位について, 日大口腔科学, 27: 312-319, 2001.
- (※) 15) Komiyama O, Asano T, Suzuki T, Kawara M, Wada M, Kobayashi K, Ohtake S: Mandibular condyle movement during mastication of foods, Journal of Oral Rehabilitation, 30:592-600, 2003.
- (※) 16) 齊藤孝親, 梅田宜承, 村上 洋, 橋爪英城, 内田貴之, 多田充裕, 大関一弥, 大高裕子, 吉川隆雄, 笹原廣重: 開咬による咀嚼障害を訴えた高齢者慢性関節リウマチの一例, 日口診誌, 15:280-285, 2002.
- (※) 17) 伊藤孝訓, 青木伸一郎, 井出壺也, 須藤玲美, 北原聡子, 笹原廣重: 歯科医療面接における傾聴技能に関する研究—ビデオ観察による初診患者に対する学生の評価基準—, 日本歯科医学教育学会, 18(1):84-93, 2002.
- (※) 18) 大沢聖子, 大関一弥, 酒井 淳, 内田貴之, 多田充裕, 吉野祥一, 伊藤孝訓, 齊藤孝親, 齊藤哲也, 小倉京子: ネットワークによる在宅歯科医療の診断的支援に関する研究 第3報: ブローバンドの伝送速度の様相例, 日口診誌, 18(2):237-241, 2005.
- (※) 19) 大川将彦: 咬合音による歯周組織の評価—歯周初期治療前後の比較—, 日口診誌, 15: 183-189, 2002.

- (※) 20) 井田聡子：直感的思考様式に関連した事象関連電位の成分分析，日本口腔診断学会雑誌，18(2):2-11, 2005.
- (※) 21) 青木伸一郎,伊藤孝訓,長野裕行,井田聡子,鈴木義孝,大沢聖子,會田雅啓,笹原廣重：咀嚼と認知情報処理過程との関連性－異なる最大咬合力グループにおける比較－，日本補綴歯科学会雑誌，48(4):583-591, 2004.
- (※) 22) 浅野 隆,川良美佐雄,鈴木浩司,小見山 道,福本雅彦,飯田 崇：身体運動時の下顎の動態に関する検討－背筋力発揮時における咀嚼筋活動について－，日補綴誌，50:45-53, 2006.
- (※) 23) 三好克実：顎運動の3次元表現を応用した小児に適した顎運動解析装置の開発，小児歯誌，40(3):441-453, 2002.
- 24) 三好克実,松根健介,松永利恵,前田隆秀：外傷による下顎関節突起骨折患児の顎運動測定，日本外傷歯学会雑誌，1(1):42-49, 2005.
- (※) 25) 三好克実：顎関節症児の平均的顎頭点と3次元顎運動から求めた顎頭点との位置の検討，小児歯誌，43(1):35-40, 2005.

#### 4-3 初期う蝕検出装置による診断法の開発研究グループ

- (※) 26) 山崎 優,植松晃樹,黒瀬絵里奈,五島博恵,新井陽子,吉田明弘,前田隆秀：Carisolv™を使用した齲蝕歯の細菌学的検索とその予後，小児歯科学雑誌，40(3):485-492, 2002.
- (※) 27) 山崎 優：幼若永久歯の初期齲蝕診断の検討－視診・触診と光学的ならびに細菌学的評価－，小児歯科学雑誌，42(3):375-382, 2004.
- (※) 28) 水野恭子,後藤田宏也,田口千恵子,小林清吾,橋爪智美,前田隆秀,福島和雄：大学生および児童からのブラッシング歯垢を検体とする *S.mutans* 迅速測定キットの有用性評価，小児歯科学会雑誌，43(1):58-64, 2005.
- (※) 29) 後藤田宏也：齲蝕活動性試験法に関する研究－高齲蝕群と無齲蝕群における唾液流量,唾液緩衝能および齲蝕細菌数－，日大口腔科学，29:194-206, 2003.
- (※) 30) 後藤田宏也,水野恭子,田口千恵子,有川量崇,小林清吾,門澤久美子,斎藤美芽子,井田博久,上江洲香實,福島和雄：ミュータンスレンサ球菌レベル算定用の改良選択培地の有効性評価，口腔衛生学会雑誌，55(2):89-94, 2005.
- (※) 31) Gotouda H, Sasai H, Taguchi C, Wang J, Arikawa K, Kayo Kuyama, Mega J, Yamamoto H, Kobayashi S: Study on Salivary Volume by the Modified Ion Dilution Method, Int J Oral-Med Sci, 3(3):121-126, 2005.
- (※) 32) 後藤田宏也,田口千恵子,内山敏一,有川量崇,小林清吾,佐久間汐子,上江洲香實：歯科用探針を代用する DIAGNOdent®の有用性について，口腔衛生学会雑誌，55(3):159-164, 2005.